

平標山 山行報告



【山 域】上越

【場 所】平標山 1983.7m・仙ノ倉山 2026.2m

【行動日】2018.6.23(金)～24(土)

【参加者】CL 大木、SL 渡辺純子、小澤、磯部(記録)

【行程】

6/23 (曇り)千葉西口 8:30 集合・出発 月の夜 IC 道の駅 0 時到着し仮眠

6/24 (晴れ)道の駅→元橋有料駐車場 6:05→松手山 8:05 平標山頂 10:30→
仙ノ倉山 11:30→平標山の家 R13:00・S13:20S→元橋駐車場 15:45



【内容】

三国山脈平標山は群馬県みなかみ町と、新潟県南魚沼市にまたがる谷川連峰西端の高峰で、東に接する仙ノ倉山へ続く広い稜線には、ハイマツや石楠花の緑地に高山植物の群落が点在している。

大木リーダーの読みが的中し(天城山を変更)行動日は朝からよく晴れている。元橋駐車場には、すでに先着の車があり登山準備をしている登山者が見られた。

林道を少し行くと、進行方向右側に登山口があり階段状に整備された急登がブナなどの林の中に続く。大木リーダーがかつて頂上で歌ったという草原の輝

きを心の中にて口ずさみながら何とか、乗り切る。途中、石楠花の咲き残りにも出会うことができた。

樹林帯を抜けると眺望が開け、台形の苗場山が堂々とした山容を見せてくれる松手山に到着、そこで小休止。東京の山岳会の新人合宿の方たちと会う。

眺めの良い稜線を涼しい風を受けながら登っていき頂上に到着。広い頂上には10時半という時刻にもかかわらずたくさんの人々で賑わっていた。

谷川、会津方面はもちろん、遠く残雪を纏った白馬岳も見ることができる、素晴らしい眺望である。この日は、梅雨の晴れ間ではあるが空は秋のように高く絹雲が上空に巻き、柔らかな雲が下層にたなびいている。さわやかな乾いた風が吹き抜けてとても気持ちが良い。

これから仙ノ倉山までは、長い階段を下りまた登る道であるが、道の両脇には高山植物が咲き乱れているのが遠目にも分かるので励まされて出発する。

木道の両脇はまさにお花畑、ハクサンイチゲの白い花が一面に広がっている、まさに草原の輝きである。その中に点々とピンクのハクサンコザクラがアクセントとなって見られる。登山道沿いにも咲いていたヨツバシオガマも沢山咲い



ている。

仙ノ倉山はさらに眺望が良く明るい、今登ってきた道も見え、万太郎山への道が続いている。

下山は平標山の家経由をとる。巻き道が廃路となっているため、頂上を経て下山する。やはり階段が続くが、この道は紅更紗満点星(ベニサラサドウダン)の濃い紅色がすばらしい、目を下に向ければ咲き終わったイワカガミ、マイヅル草や花を付けたアカモノもあり真っ赤な実を着けた秋の様子を想像させる。

ナナカマドも多いので、この道はきっと秋も素晴らしいと思う、是非秋にまた訪れてみたい山である。

平標山の家は綺麗に整備されていてトイレも清潔だ、冷たい水がおいしい。ここからは、急なくだりを経て、林道その後沢沿いの林の中の道、ここは見上

げるとタニウツギが満開で里山の雰囲気である。

駐車場に着き、〇〇温泉にて汗を流し帰路についた。

今回の山行で学んだことの一つは、山行には天気の見極めが大切だということ、特に梅雨時はあきらめる前に様々な情報を確認して、山を選ぶことが大切である、リーダーの的確な判断で快晴のもと楽しむことができたことを感謝したい。もう一つは、個人的なことであるが、筋肉トレーニングの効果と山に行く回数と体力は比例するということ。これからもできるだけ多く、自分の力に見合った山行に参加して付いて行けるようになりたいと思う。

大木リーダーには運転を一人で引き受けていただき、また渡辺サブには助手席でのナビと目覚ましを引き受けて頂きありがとうございました。

記録：磯部

